

# 黒川森林組合だより

第 75 号

発行者 黒川森林組合

事務所

〒981-3407

黒川郡大和町落合松坂字直南沢39番地23

TEL (022) 345-2203 FAX (022) 345-2631

木材加工所

TEL (022) 345-2661 FAX (022) 345-2679



## 黒川森林組合

代表理事 組合長

副組合長 理事

理事(総務委員長)

理事(業務委員長)

理事(総務副委員長)

理事(業務副委員長)

理事

理事

理事

理事

代表

監事

監事

監事

他職員一同

佐藤 豊彦

石垣 英孝

佐藤 武明

加藤 房夫

遠藤 久雄

小畑 重敏

浅野 鐵夫

佐藤 文徳

藤江 昭夫

佐々木 金弥

小松 勇夫

赤坂 隆一

熊谷 稔

高橋 真也

齋藤 一郎

他職員一同



**黒川（七ツ森）材東京へ**

黒川森林組合  
代表理事組合長 佐藤 豊彦

新年あけましておめでとうござい  
ます。組合員、お客様をはじめ多くの  
方々が、佳い新年をお迎えのこと  
と心よりお慶び申し上げます。  
初夢 役職員の信頼は組合員に  
福を呼ぶ。  
2019年の台風19号により、  
郡内随所で甚大な被害がありまし  
た。吉田川の決壊で大郷町粕川地  
区や鶉崎袋地区は、住宅や作業場  
は浸水被害により未だに仮設住宅  
にお住まいであります。未だに窮  
屈な生活を強いられている方々に  
改めてお見舞い申し上げます。  
未だにコロナウイルス終息が見  
えず、催し物は中止や厳しく制限  
される中において、組合員と多く  
の皆様とお会いできる事を楽しみ  
にしておりますが、健康維持・  
感染対策の観点から黒川森林まつ  
りは中止と致しました。とても残  
念に思いますが、コロナ禍が終息  
となった暁には盛大なる開催をと

思っております。  
コロナ禍の中、延期になっていた  
ました2020東京オリンピック、  
パラリンピックも無観客の開催で  
ありましたが、多くの方々に感動  
と勇気を与え無事終了しました。  
コロナに負けない選手個々の精神  
力、決して諦めない忍耐力、困難  
を乗り越える素晴らしい力を感じ  
る事が出来ました。  
当組合におきましても、組合員  
や作業員からはコロナ禍や様々な  
要因による不可抗力の影響は避け  
られない状況だと業績悪化を懸念  
する声がありました。様々なご  
指導を頂きながら役職員全員で知  
恵を出し合い努力しこの困難を乗  
り越えることができました。  
先輩方が毒虫と闘いながら、暑  
さ寒さに耐え一生懸命育ててくれ  
たおかげで黒川の森林はしっかりと  
と根を張り、着実に年輪を刻み育  
ちました。黒川材、七ツ森林は多  
くの施主様のご要望により注文は

増え続けています。製材工場では  
毎朝所長の号令の下、工場長はじ  
め職工が神前に一礼し一日がはじ  
まります。ウッドショックによる  
原材料不足や建築資材の高騰の影  
響もありましたが、加工部門は事  
業計画を上回る事ができました。  
先人たちが育てくれた貴重な森林  
資源財産に感謝しながら、役職員  
一丸となり長期的な健全経営で、  
なおかつ内部留保の拡充と有効活  
用によって万全な基盤構築も踏ま  
えつつ、組合員1600名の方々  
に配当をもって負託に応えるよう  
に努力して参りたいと存じます。  
おかげさまで黒川森林組合及び  
（有）たんがら森は事業計画を上回る  
業績を達成することができました。  
これは一重に組合員や関係各所の  
皆様のご支援や作業員協力業者皆  
様の努力の賜物と深く感謝を申し  
上げます。  
最後になりましたが、除夜の鐘  
の108の音を心に思いながら、  
お客様、組合員、作業員、役職員  
はじめ皆様方々のご健勝とご多幸  
を心よりお祈り申し上げます。新年の  
ご挨拶と致します。



**新年のごあいさつ**

宮城県仙台地方振興事務所  
所長 富田 政則

新年明けましておめでとうござ  
います。組合員の皆様には、新し  
い年を健やかに迎えのことと心  
よりお慶び申し上げます。  
今年、新たな県政運営の指針  
である「新・宮城の将来ビジョン」  
の2年目に入ります。昨年に引き  
続き、市町村やNPO、企業など  
多様な主体と連携・協働しながら  
新型コロナウイルス感染症対策と  
復興完了に向けた施策に力を入れ  
るとともに、「新・宮城の将来ビ  
ジョン」に基づく取組を着実に推  
進してまいります。特に、あらゆる  
分野でデジタル技術を最大限に  
活用しながら、県民サービスの向  
上や仙台圏域の産業の活性化等を  
図るとともに、若者の定着や子ど  
も・子育てを社会全体で支える環  
境整備等に重点的に取り組んでま  
います。

展示することで、2050カーボン  
ニュートラルを見据えた社会の実  
現を目指すこととしております。県  
においても、ICTの活用や一貫  
作業システムの普及により再造林  
等の省力化、低コスト化を着実に  
進めるとともに、木材のサプライ  
チェーンの再構築により木材の安  
定供給や林業の持続的発展を図っ  
てまいります。また、森林経営管  
理制度の定着に向けては、市町村  
の森林整備等の取組をより一層推  
進するため、森林組合との連携強  
化により市町村を支援し、森林管  
理の適正化に努めてまいります。  
黒川森林組合におかれましては、  
佐藤豊彦組合長をはじめ、組合員  
と役職員の皆さまが一丸となつて  
健全な組合運営に努められること  
もに、地域林業の担い手として、  
林業・木材産業の振興に御尽力い  
ただいておりますことに、改めて  
敬意を表します。県といたしまし  
ても、引き続き森林資源の循環利  
用を通じた森林の整備や持続可能  
な林業経営の推進に鋭意取り組む  
所存でございますので、今後もな  
お一層の御協力をお願い申し上げ  
ますとともに、貴組合の益々の御  
発展をお祈りいたしまして、新年  
のごあいさつといたします。



**新年のご挨拶**

大郷町  
町長 田中 学

黒川森林組合員の皆様、新年お  
めでとございます。皆様には、  
輝かしい新春を健やかに迎えの  
こととお慶び申し上げます。  
貴組合におかれましては、黒川  
地域の行政、とりわけ林業行政に  
格別のご協力をいただき、この場  
をお借りして御礼申し上げます。  
また、佐藤代表理事組合長をはじ  
め、職員・組合員の皆様におかれ  
ましては、森林資源を守るために  
日々ご尽力をいただいております  
ことに、心より敬意と感謝の意を  
表すものです。  
森林は、木材等の林産物を生産  
するとともに、災害の防止をはじ  
め、自然環境の保全や形成、洪水  
緩和や水資源貯留といった水源か  
ん養、リハビリテーションやリフ  
レッシュといった保健休養の場の  
提供など、公益的・多面的な機能  
を持つております。また、近年は、  
地球温暖化防止の観点から、二酸  
化炭素を吸収・固定する森林の働  
きが国際的に重要視されており、  
私たちの暮らしにたくさん恵み  
をもたらしている森林は、わが国  
にとつて、なくてはならない、か  
げがえのない資源と言えます。

本町におきましては、田園を包  
み込むように広がる豊かな森林が、  
貴重な動植物の生息地となつてお  
ります。自然環境の保全を図るべ  
き区域と経済活動や自然体験地域  
として活用すべき区域を峻別し、  
町民と都市住民が交流する自然体  
験地域としての利活用促進に努め  
ているところであります。また、昨年は、  
本町道の駅おおさと駐車場にサル  
スベリ15本を植樹いただきました。  
現在、この場所は、子どもから高  
齢者まで多世代が立ち寄れる憩い  
の場となっております。  
就業者の高齢化や人手不足、国  
産木材の流通停滞、さらに新型コ  
ロナウイルス感染拡大による建築  
市場への影響など、林業を取り巻  
く現状はまだまだ厳しい状況にあ  
ります。豊かな森林を未来に引  
き継いでいくことに、大きな期待  
を寄せますとともに、関係機関が  
協力し、地域林業の発展に一層ご  
尽力賜りますようお願い申し上げ  
ます。  
結びに、黒川森林組合の益々  
のご発展と、組合員皆様のご健勝と  
ご多幸、更なるご活躍を祈念申し  
上げ、新年の挨拶といたします。



# 新年挨拶

宮城県森林組合連合会

代表理事会長 佐藤 正友

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、穏やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

常日頃は、当連合会の業務・運営に特段のご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

一昨年は、世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスにより、わが国でも国民生活・社会経済活動に重大な影響が発生し、私たち林業界においても原木需要の減少等、多大な影響が出ました。一方、昨年は米国や中国の木材需要増大等を背景としたいわゆるウッドショックが発生し、輸入材・集成材を利用して工務店はその影響を強く受け、国産材を利用している工務店も、スギ丸太や製材品価格が急騰し、建築現場では資材調達が困難な状況になりました。

森林組合系統に対して、製材業界からは県産材増産の要請がありました。保育事業等への傾注等により思うような増産には至りま

せんでした。

そのような中、森林組合系統は令和3年度から新たな系統運動「JForestビジョン2030」が始まりました。平成31年施行の森林環境譲与税や森林経営管理制度等により新たな取り組みが始まったこと、そして令和2年の森林組合法改正により森林組合系統の新たな連携手法が可能になったことを踏まえ、先人たちが植えた人工林が成熟期を迎えた今、地域森林の適切な利用、保全と林業経営の更なる発展に向けて、森林組合系統を挙げて、諸課題に取り組みながら、施業の集約化、現場技能者の確保・育成、機械化による林業の低コスト化などを進めてまいりますので、貴森林組合、並びに森林組合員の引き続きのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりましてすばらしい一年となりますことを心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

